

学習院大学史料館 ミュージアム・レター

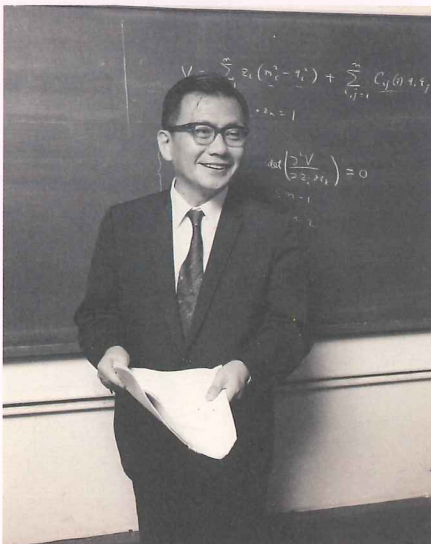
Gakushuin University
Museum of History

Museum Letter No.30

発行日 ● 平成27年(2015)10月15日

もくじ

ごあいさつ.....	1
小平邦彦先生一功績と人となり.....	2~4
学習院大学史料館からのお知らせ.....	4



東京大学時代 (1967年頃か)

ごあいさつ

学習院大学史料館では10月15日～30日に『生誕百年記念 小平邦彦一代数幾何学の巨人』というテーマでミニ展示を、そしてその関連講座として、史料館研究員でもある本学中島匠一教授による第77回学習院大学史料館講座「役に立つ数学・楽しい数学」を開催致します。本ミュージアムレターをご覧頂ければ、小平邦彦先生は日本初のフィールズ賞受賞という類い希な数学者であるだけでなく、音楽に造詣が深く、その優しい人となりまでも楽しく理解することができます。数学にご縁のあるかたはもちろん普段数学にご縁のない方にとっても興味深い展示であると思います。また関連講座では、普段数学にあまり触れておられない方にも楽しくご参加頂けることと思います。皆様には本ミニ展示会および講座を通じて、我々史料館の展示や活動を身近に感じて頂ければ幸いです。

最後になりましたが、この展示および史料館講座開催にご尽力、ご協力いただきました小平家御遺族、一般社団法人日本数学会、甲府市立図書館をはじめ関係各位に心よりお礼を申し上げます。
(史料館長 上田隆穂)

小平先生とフィールズ賞

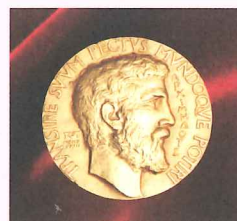
小平邦彦先生は日本人初のフィールズ賞受賞者として有名である。その受賞理由は複素多様体論に関する圧倒的な業績で、もちろん、そのこと自体が素晴らしい。しかし、それとは別に、多くの方に意識しておいていただきたいことが1つある。それは、小平先生の「フィールズ賞受賞後の業績」が「ものすごい」ということである。

「受賞後」の仕事として、筆者は(1)複素多様体の変形理論(2)複素解析曲面論(特に、楕円曲面論の構築)(3)小平スクールの育成、を取り上げたい。

(1)と(2)は、本紙の赤尾氏の記事にもある通り、複素多様体論での顕著な業績である。さらに、(1)と(2)は先生の専門とは離れた「整数論」に圧倒的な影響を与えたことも強調しておきたい。(1)から発生した「ガロア表現の変形理論」と(2)から発生した「数論曲面の理論」はフェルマーの最終定理の解決に欠かせない理論なのである。(2)に関して先生は「古典的な楕円関数論が不思議なほどうまく使えて、研究は何の困難もなく着々と進行した。」と書かれているが、これは筆者のような凡庸な数学者から見たら、「羨まし過ぎる」状況である。今回は、先生が学生時代に「古典的な楕円関数論」を学習されたノートも展示されるのが興味深い。

(3)は、日本に帰国された先生が、多くの優秀な学生を「優れた数学者」に育て上げたことを指している。これは「数学」での仕事ではなく「数学者」に関わるものだが、日本の数学にとってはとても大きな意味を持っているので、筆者は小平先生の「業績」に数えたい。今回の展示で、多くの学生に慕われた先生の「魅力」を感じていただければ、幸いである。

(数学科教授・史料館研究員 中島匠一)



フィールズ賞(重さ:151g、直径:63mm、厚さ:5mm)

4年に一度開催される国際数学会議(ICM)で40歳以下の数学者に授与される。アルキメデスの肖像が刻まれている

(所蔵 甲府市立図書館、写真提供 東京書籍)